

計画書記載例2: 規則第3条第4号(エネルギー起源CO2
以外の温室効果ガスを多量に排出する者)に該当する者

・本社の住所・代表者の氏名を記載してください。
・本社代表者以外が提出する場合は、委任状を添付してください(様式任意)

住所
静岡県静岡市葵区追手町0-0
氏名
静岡県庁株式会社
代表取締役 静岡 太郎
申請者番号
111111

押印不要

対象者が提出する新規の計画書は、「第1項」となります。

静岡県地球温暖化防止条例第12条 第1項 の規定

電子申請する場合は、記入してください。
紙提出の場合は記入不要です。
※申請者番号交付の手続きは別途記載。
原則、電子申請で御提出ください。

特定事業者	氏名 (名称及び代表者の氏名)	静岡県庁株式会社 代表取締役 静岡 太郎
	住所 (主たる事務所の所在地)	〒 420-0000 静岡県静岡市葵区追手町0-0 (電話番号) 054-221-1000
	名称	静岡県庁株式会社 静岡工場
	所在地	〒 420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 (電話番号) 043-221-3781
本報告書作成担当	所属	環境政策課 静岡 次郎
	連絡先	〒 420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 (電話番号) 043-221-3781 (Eメールアドレス) kankyou_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
計画の内容	静岡県地球温暖化防止条例施行規則第3条 ☐ 第1号 ☐ 第2号 (県内事業所数 事業所) ☐ 第3号 (自動車保有台数 台) ☒ 第4号 (該当する温室効果ガスの種類 ハイドロフルオロカーボン)	
	事業所において行われる事業 16 化学工業 別紙1、別紙3のとおり ・事業所で行う事業の区分を選択してください。	

(注)

1 静岡県地球温暖化防止条例施行規則第3条第1号又は第4号に該当する事業者は、対象となる事業所ごとに提出すること。

2 該当する口にレ印を記入すること。

3 変更の場合にあっては、変更内容が分かるように記入すること。なお、別紙の内容に変更がなければ、別紙の添付は不要とする。

(別紙1)

1 計画期間

計画期間	令和	3	年度	～	令和	5
------	----	---	----	---	----	---

原則、提出年度から3年間としてください。
※やむを得ない事情がある場合は2年以内でも可

2 温室効果ガスの排出量の削減目標

適切な指標を任意に選択してください。		基準年度	目標年度	対基準年度比
		令和 2 年	令和 5 年	
		二酸化炭素換算 (t)	二酸化炭素換算 (t)	
☐	温室効果ガス排出量A	6,720	5,800	
☒	原単位排出量A/B	672.00	580.00	
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値B		10.0 百万個	10.0 百万個	
(生産数量)		(生産数量)		
Bの選択理由		生産数量により、設備の稼働時間が大きく影響を受けるため		

別紙2を参考に、必ず記入してください。また、目標年度の値を必ず設定してください。

Aを選択した場合は記入不要です。
A/Bを選択した場合は、Bの値を任意に設定し、その値を入力してください。

3 事業活動に伴う温室効果ガスの排出の抑制を図るために実施する重点対策

(1) 基本対策

実施年度	対策区分	設備・項目	対策メニュー	温室効果ガスの排出の抑制を図るために実施する措置	期待する削減効果
3	運用対策	一般管理	エネルギーデータ管理	ウ SF6ガス絶縁機器(変圧器・遮断機等)の封入ガス圧力等や、生産工程において使用するHFC、PFC、SF6の量を把握すること。	0.3%
3-5	設備導入	省エネ技術の導入	温室効果ガス使用設備	ア HFC、PFC、SF6使用工程及び設備のノンフロン化又は密閉、または温室効果の低いガスへの転換を図ること。	0.5%
3-5	設備導入	省エネ技術の導入	温室効果ガス使用設備	イ HFC、PFC、SF6使用工程において、温室効果ガス除外装置を設置し、適切に運用すること。	0.5%
ドロップダウンリスト(指針(別表1)基本対策一覧)から、計画期間内に行う予定の対策を任意に選択してください。					比較 0.5%
4-5	設備導入	その他	燃料の選択	単位発熱量当たりの二酸化炭素排出量が小さい燃料を優先的に選択して使用すること。	1.0%
4	設備導入	その他	再エネ・未利用エネ活用	ア 太陽光発電、風力発電、廃棄物発電、パ小型水力発電等の再生可能エネルギーに係るた設備を導入すること。	
5	運用対策	一般管理	運転管理	設備は、負荷の状況に応じ、高効率の運転が運転管理を行うこと。特に、設備が複数の設いる場合は、総合的なエネルギー効率を向上荷の状況に応じ、稼働台数の調整、稼働機器の適正配分を行うこと。	
5	設備導入	省エネ技術の導入	燃焼設備	エ 燃焼設備ごとに、燃料の供給量、燃焼に伴う排ガス温度、排ガス中の残存酸素濃度等に関する計測装置を設置し、コンピュータを使用すること等により適確な燃焼管理を行うこと。	3.0%

左に記載した対策により、選択した指標(温室効果ガス排出量または原単位排出量)を削減できる見込みを割合で記載してください。

(2) (1) 以外の特色ある取組

実施年度	対策区分	設備・項目	対策メニュー	温室効果ガスの排出の抑制を図るために実施する措置	期待する削減効果
3-5	二酸化炭素の吸収源対策	二酸化炭素の吸収源対策	山林での植林活動等を行い、吸収源対策を行うこと。	事業所周辺の〇〇の森において、△月に職員約××人で植林活動（約□□本）を行う。	
3	地域や社員の家庭への普及啓発	社員の家庭への普及啓発	温暖化防止に関する社員教育の中で、社員の家庭での省エネルギーと	〇月に社員教育（温暖化防止研修会）を行い、各社員に対し温暖化防止に関する研修を行う。また、研修の中で家庭内の省エネチェックを行うことで、家庭内での省エネ行動につな	
ドロップダウンリスト(指針(別表3)その他対策一覧)から、計画期間内に行う予定の取組内容に近い区分を任意に選択してください。				(1)に記載した以外の特色ある取組の内容を任意に記載してください。	
4-5	地域や社員の家庭への普及啓発	地域等連携	し、環境に関するイベントや出前講座を開催すること。	地域のNPOと連携し、近隣の△△小学校で環境出前講座を開催する。	
5	エネルギー起源以外の削減取組	廃棄物削減対策	その他	地域でも活用できる生ゴミ処理設備を設置。3R・省エネ推進を図る。	

左に記載した対策により、選択した指標(温室効果ガス排出量または原単位排出量)を削減できる見込みを割合で記載してください。なお、不明の場合は空欄でも構いません。

4 温室効果ガスの排出の抑制以外に実施する措置

(1) 静岡県地球温暖化対策 企業参加型事業への参画

参画年度	事業名	計画した参画の内容
3-5	ふじのくにCOOLチャレンジ	社員に温暖化防止アプリ「クルポ」への参加を呼びかけ。
3	環境マネジメントシステム（エコアクション21、ISO14001等）の普及啓発	エコアクション21について、業界関連企業に取得を促進
4-5	しずおか未来の森サポーター制度（協定締結企業）	緑の森サポーターとして、〇〇市と協定を結び、△△の森にて森林整備活動を実施
ドロップダウンリスト(指針(別表4)県事業一覧)から、計画期間内に行う予定の参画事業の内容を任意に選択してください。		左に記載した事業への参画の内容(具体的な関わり方)を記載してください。
5	静岡県リサイクル認定製品	新規に製造するリサイクル製品「〇〇」について、認定を取得

備考

1 「基準年度」は計画期間の初年度の前年度とし、「目標年度」は計画期間の最終年度とすること。

2 「温室効果ガスの排出の量の削減目標」欄については、削減目標を立てるに当たって指標とするものを「区分」の欄からいずれか選択し、該当する□にレ印を記入すること。この場合において、「原単位排出量 A/B」を選択した場合においても「温室効果ガス排出量 A」の値は記入すること。

(別紙3) 基準年度の温室効果ガス排出状況【第4号事業者用】

温室効果ガスの種類		別名	地球温暖化係数 A	使用量(t) B	温室効果ガス 排出量(t-CO2) C=A×B
1	二酸化炭素(CO2) (非エネルギー起源)		1		0.0
2	メタン(CH4)		28		0.0
3	一酸化二窒素(N2O)		265		0.0
4	ハイドロフルオロカーボン(HFC)	(小計)		6.0	6,720.0
	トリフルオロメタン	HFC-23	12,400		0.0
	ジフルオロメタン	HFC-32	677		0.0
	フッ化メタン	HFC-41	116		0.0
	1,1,1-トリフルオロエタン	HFC-125	3,170		0.0
	1,1,2-トリフルオロエタン	HFC-134	1,120	6.0	6,720.0
	1,1,1,1-テトラフルオロエタン	HFC-134a	1,300		0.0
	1,1,2-トリフルオロプロパン	HFC-143	328		0.0
	1,1,1,2-テトラフルオロプロパン	HFC-143a	4,800		0.0
	1,2-ジフルオロプロパン	HFC-152	16		0.0
	1,1-ジフルオロプロパン	HFC-152a	138		0.0
	フルオロプロパン	HFC-161	4		0.0
	1,1,1,2,3,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-227ea	777		0.0
	1,1,1,1,3,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-236fa	113		0.0
	1,1,1,2,2,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-236ea	113		0.0
	1,1,1,2,2,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-236cb	113		0.0
	1,1,2,2,3,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-245ca	777		0.0
	1,1,1,1,3,3-ヘキサフルオロプロパン	HFC-245fa	858		0.0
	1,1,1,1,3,3-ヘキサフルオロブタン	HFC-365mfc	804		0.0
	1,1,1,2,3,4,4,5,5,5-デカフルオロペンタン	HFC-43-10mee	1,650		0.0
5	パーフルオロカーボン(PFC)	(小計)		0.0	0.0
	パーフルオロメタン	PFC-14	6,630		0.0
	パーフルオロエタン	PFC-116	11,100		0.0
	パーフルオロプロパン	PFC-218	8,900		0.0
	パーフルオロシクロプロパン	PFC-c216	9,200		0.0
	パーフルオロブタン	PFC-31-10	9,200		0.0
	パーフルオロシクロブタン	PFC-c318			
	パーフルオロペンタン	PFC-41-12			
	パーフルオロヘキサン	PFC-51-14			
	パーフルオロデカリン	PFC-91-18	7,190		0.0
6	六ふっ化硫黄	SF6	23,500		0.0
7	三ふっ化窒素	NF3	16,100		
合計				6.0	6,720.0

温室効果ガスの種類

別名

地球温暖
化係数
A使用量(t)
B温室効果ガス
排出量(t-CO2)
C=A×B

1 二酸化炭素(CO2) (非エネルギー起源)

2 メタン(CH4)

3 一酸化二窒素(N2O)

4 ハイドロフルオロカーボン(HFC)

(小計)

6.0

6,720.0

トリフルオロメタン

HFC-23

12,400

0.0

※4号事業者のみ、この様式を使用してください。

HFC-32

677

0.0

※1号にも該当する事業者は、別に1号分のみに該当する計画書を作成してください。

HFC-41

116

0.0

(記載例1(P37)参照)

HFC-125

3,170

0.0

HFC-134

1,120

6.0

6,720.0

HFC-134a

1,300

0.0

1,1,2-トリフルオロエタン

HFC-143

328

0.0

1,1,1-トリフルオロエタン

HFC-143a

4,800

0.0

1,2-ジフルオロエタン

HFC-152

16

0.0

1,1-ジフルオロエタン

HFC-152a

138

0.0

フルオロエタン

HFC-161

4

0.0

1,1,1,2,3,3-ヘキサフルオロプロパン

HFC-227ea

左の温室効果ガスを使用した場合に、その使用量を入力してください。※排出量が分かっており、使用量が分からない場合は、右の「排出量」欄に排出量を入力してください。

0.0

1,1,1,1,3,3-ヘキサフルオロプロパン

HFC-236fa

0.0

1,1,1,2,2,3-ヘキサフルオロプロパン

HFC-236ea

0.0

1,1,1,2,2,3-ヘキサフルオロプロパン

HFC-236cb

0.0

1,1,2,2,3,3-ペンタフルオロプロパン

HFC-245ca

0.0

1,1,1,1,3,3-ペンタフルオロプロパン

HFC-245fa

858

0.0

1,1,1,1,3,3-ペンタフルオロブタン

HFC-365mfc

804

0.0

1,1,1,2,3,4,4,5,5,5-デカフルオロペンタン

HFC-43-10mee

1,650

0.0

5 パーフルオロカーボン(PFC)

(小計)

0.0

0.0

パーフルオロメタン

PFC-14

6,630

0.0

パーフルオロエタン

PFC-116

11,100

0.0

パーフルオロプロパン

PFC-218

8,900

0.0

パーフルオロシクロプロパン

PFC-c216

9,200

0.0

パーフルオロブタン

PFC-31-10

9,200

0.0

パーフルオロシクロブタン

PFC-c318

パーフルオロペンタン

PFC-41-12

パーフルオロヘキサン

PFC-51-14

パーフルオロデカリン

PFC-91-18

7,190

0.0

6 六ふっ化硫黄

SF6

23,500

0.0

7 三ふっ化窒素

NF3

16,100

合計

6.0

6,720.0